

「ほめられる」という毒の話

山梨大学名誉教授・前山梨大学副学長 伊藤 洋

芸の修業に褒められるほど「毒なこと」はない。

五代目古今亭志ん生の出だしは褒められるほど毒な

「清元節だの、富元節だの

「褒められない」のは、大衆な

に凝った大店の旦那など

芸能の修業だけではない。大

は、出稽古といって師匠

い。権力を握った地方自治体

を家に呼んで稽古をする

の「首長」などにとつては

る。師匠にとつてはこうす

も、「褒められること」は

で、ふんだんには稽古料は

百害あつて一利無しであ

頂けるし、付届けも貰

る。大方の関心は、新知事

お弟子を持たせ、生活は楽

与党がどれ程議席を確保

よくなるし、下町の評判も

立で、政安集中した観

ちよつと気に入らな

は、報道の結果、終わった

だよお、なあ。あの師匠、

「微妙」な結果、天の絶

ても方から「おい、なあ

れ妙な配剤だ。たの

か、師匠の好いお声、

熾烈な知事選を過

且、何て好いお声、

か、後には、県議

ルがドジョウを呑み込

数の「負け組」に、

すことうな味のあ

形で敗者が勝者

ご機嫌を取ると言

が、達成され、

の「芸の修業に褒め

争点は見事な

い。ど「毒なこ

華「点は、

戸落語の名作「寝床」の

とたこさるほ

く。これ、

こつたこさるほ

い。これ、

とたこさるほ

戸落語の名作「寝床」の

とたこさるほ

